

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

ありがとうございます。

それでは、（7）番の再質問でございますが、久保田市政だからこそ、生かされる糸魚川の特徴は何か、改めて久保田市長より伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

私も67年生きて、その中の約半分は教育行政に携わってまいりました。やっぱり一番の糸魚川の大切にしなければならぬものは人なんですね。子供をきちんと育てられる、そういう観点において、いろんな対応、施策、そして事業化、そして皆さんへの協力をお願いしていくということ、それが、一つの活力という部分に関して言えば、人づくり、その中の大事な教育というものが一番最初に考えなければならないというふうに感じております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

以上で、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（古畑浩一君）

以上で、東野議員の質問が終わりました。

それでは、11時20分まで暫時休憩といたします。

〈午前11時06分 休憩〉

〈午前11時20分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、松田徳彦議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。〔2番 松田徳彦君登壇〕

○2番（松田徳彦君）

日本共産党の松田徳彦です。

議員1期目、初めての一般質問です。よろしくお願いいたします。

それでは、発言通告書に基づき、1回目の質問を行います。

1、地域医療の充実について。

(1) J A新潟厚生連病院の経営危機が市民に不安を広げています。令和7年3月12日に「日本医師会・6病院団体」が合同声明を発表し、診療報酬等について、賃金・物価の上昇に応じて適切に対応する新たな仕組みの導入を求めています。

糸魚川総合病院への財政支援とともに、病院の赤字を減らすために合同声明の内容で医療機関等と協力していくことも必要と考えますがいかがですか。

(2) 新潟県の「地域医療構想・区域別構想（上越構想区域）」では、「糸魚川地域では地域内の完結率が8割と高く、上越地域との地理的要因によるアクセス手段・時間等も考慮する必要がありますが、地域内でも医療体制の充実を図ることが重要です。」「糸魚川地域内で一定程度完結できる病床機能を備えることが必要です。」とされています。

この点についての市の立場と上越地域医療構想調整会議での議論について伺います。

(3) 新潟県の「医師確保計画」では、令和18年までに上越医療圏で229人の増員を目標としています。市独自の大学への派遣交渉とともに県にこの目標を達成させる具体策を求めていくことも必要と考えますがいかがですか。

2、子育て支援について。

2024年の新潟県の出生数は9,941人で、14年連続で過去最少を更新しました。自然減は過去最多となりました。

安心して子育てができるためにも、子育て支援が大切と考えます。

(1) 学校給食の無償化は国も必要性を認めていますが、子育て世代の支援のためにも物価高騰の緊急対策としても、国に先駆けて学校給食費を段階的に無償化していく考えはありませんか。

(2) 国保税には「均等割」があり、子供が生まれるたびに世帯の負担が増えることとなります。現在、小学校就学前の児童には減額措置があります。さらに出生を応援するために児童の均等割を免除する考えはありませんか。

3、平和行政について。

今年は、戦後80年、被爆80年です。「糸魚川市平和都市宣言」制定から18年です。国連では核兵器禁止条約が発効するなど、平和への大きな流れがありますが、痛ましい戦争が続いている現状もあり、報道等に心を痛めておられるという声も聞きます。

また、戦争や被爆の体験をされた方が少なくなり、その継承は大きな課題となっており、教育の重要性は増しています。

(1) 例年取り組まれている市内中学生の被爆地訪問について、その成果と今年の計画を伺います。

(2) 被爆80年の年に新たに行う平和施策は予定されているか伺います。

(3) 広島の高校生が被爆者から聞き取ったことを絵にしています。その絵を一定期間、校舎に

展示して児童・生徒に鑑賞してもらうことを検討できないか伺います。

(4) 毎年実施されている「原爆と人間」のパネル展を市民が集まる市役所ロビーで開催することを検討できないか伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。よろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

松田議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、現在、糸魚川総合病院における経営改善策の共有を図るとともに、今後の診療体制や必要となる支援策について、協議を行っているところであります。

2点目につきましては、当市の地理的条件から、救急医療をはじめ市内で一定程度完結できる医療体制の維持は不可欠と考えており、中期再編の中で位置づけられております。

3点目につきましては、現在、県において、地域枠等の医学生への修学資金貸与、臨床研修医の確保などに取り組んでおりますが、地域医療構想の推進とともに、医師の確保や偏在対策は重要な課題であり、実効性のある取組を求めています。

2番目の1点目につきましては、国において無償化の動きがありますので、動向を注視してまいります。

2点目につきましては、法にのっとり賦課徴収を行っていることから、均等割免除については、考えておりません。

3番目の1点目につきましては、参加した中学生から平和の大切さを学ぶことができたという報告をいただいております、学校でも学びが共有されております。今年度は、8月5日から3日間、市内中学生10人を広島へ派遣し、平和記念式典や被爆体験講話への参加などを予定しております。

2点目につきましては、地区公民館や市内全ての小学校、中学校及び特別支援学校へ、平和都市宣言パネルの設置を予定しております。

3点目につきましては、児童・生徒の平和教育に寄与するものと考えており、教育委員会事務局、学校と協議してまいります。

4点目につきましては、パネル展は、市内の団体が毎年開催しているもので、団体と協議してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度の質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

答弁ありがとうございます。

1番の(1)について追加質問させていただきます。

全国の病院の6割以上が赤字という異常事態です。その大本の医療費抑制政策を変えて、病院の赤字を減らしていく必要があります。赤字だからということで、それぞれの病院が経営改善をする
と職員の給料をカットするなど、やむを得ない方向に進んでいき、看護師などが集まらず、サービスの低下するという悪循環に陥っていくことになります。診療報酬を引き上げて、スタッフの待遇を改善し、患者へのサービスをよくしていく方向にすべきと考えますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

議員のほうからご提言のありましたように、私どもも今、JA新潟厚生連——糸魚川総合病院を運営している団体になりますが、こちらと連携して、6市の協議会というものを設けておまして、これは、この6市というのは、地域の中で、この厚生連の病院が基幹病院を成している6市でござ
います。そんな中で、ちょうど来週ですね、中央要望に行かせていただくことになっておまして、
主な要望項目は、診療報酬の抜本的な見直し、そんなところを強く国に求めていきたいというふう
に考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

ありがとうございます。よろしく申し上げます。

JA新潟厚生連病院は、公的病院として、僻地医療など不採算医療を担い、地域に重要な役割を
果たしています。糸魚川総合病院に必要な財政支援はするとしても、国民医療費を年間4兆円も削
減するという与党などの合意が実施されれば、際限ない病院の赤字に、市の財政がもたなくなりま
す。赤字べらしのために、令和8年度の診療報酬改定を待たずに、期中改定で報酬を引き上げるよ
うに、さらに強力に取り組むことが必要と考えますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

県立病院においても大変な赤字の状況でございます。

そんな中で、花角知事のほうも、国のほうにそのような要求・要望をされておりますし、あわせ
て、私どもも国に対してそのような形で診療報酬の見直しをすることで、病院経営が少しでも上向
く、そういうことを求めてまいりたいというふうと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

ありがとうございます。

私です、市民の皆さんの声を伺う中で、市政に力を入れてほしいことの一番は、地域医療の充実です。そして、糸魚川総合病院に求める医療は、救急医療と手術との声が多いです。糸魚川総合病院を二次救急の病院として継続していくことが必要と考えますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

これまでもずっと答弁してまいっておりますが、今の糸魚川総合病院の機能をできるだけ維持したいというのが、私ども市の考えでございます。完全に100%維持できるかというのは、お約束はできないかもしれません。ですが、救急の部分はどうしても守りたいというふうに考えております。

○議長（古畑浩一君）

発言の途中ですがちょっと議長として申し上げますが、林課長ね、発言する際の一番最初は、議場の議長に向かって礼をするように、あなた全部素通りしましたね。それ駄目ですよ。今言っておきますけどね。ほかの職員も気をつけてください。

失礼しました。

では、松田議員どうぞ。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

市民の皆さんからは、救急なのに富山県や上越市に行かざるを得ないのでは貴い命が危険な状況だという声や、上越市への通院では交通費も労力も負担が大き過ぎるという声もあります。上越医療圏の中核病院が上越市に1か所のみになると、糸魚川からは50キロメートルも離れているため、いつでも必要な医療が受けられる環境でなくなるかもしれないと考えますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

そういった地理的事情というのが非常に大きい地域だと思っておりますので、そういったことを、

地域医療構想の中でも十分に訴えさせていただいておりますし、関係者の皆さんは、糸魚川の事情というのご理解いただいているものと捉えております。

以上です。

○議長（古畑浩一君）

ちょっと暫時休憩いたします。

〈午前11時36分 休憩〉

〈午前11時37分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

それでは、休憩を解き、会議を再開いたします。

それではどうぞ。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

今年は2025年問題の年です。団塊の世代が全て75歳以上の後期高齢者になります。そして、その世代というのは、高度経済成長期を支え、日本の経済を仕事一筋で頑張ってきた、本当に苦労された方々です。その方たちが健康寿命——健康の問題なく自立した生活を送れる年齢ですが、これを過ぎていけば、医療や介護の必要な方が増加することになります。つまり、人口減少だからといって即患者減少と結びつかないと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山口市民部長。〔市民部長 山口和美君登壇〕

○市民部長（山口和美君）

お答えさせていただきます。

議員おっしゃるように、この団塊の世代の方が、これから75を過ぎてということで、一時は上昇するという推計のほうは認識しております。ですので、その後、なるべく健康寿命、健康でいただくという取組も、市のほうは、併せて実施しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

ありがとうございます。その方向で、ぜひ取組をお願いしたいと思います。

それでは、（3）のほうに移ります。

市民の皆さんからは、脳、心疾患の専門医を常勤で配置しておかないと、助かる命も助からないという具体的な声もあります。大学医学部への新潟県地域枠も徐々に増えてはいますが、令和6年

度で77人、十分ではない状況です。県と共に医師を増やす強力な取組をお願いします。

それでは、1番を終わりました、2番、子育て支援に入ります。再質問です。

大和総研の主任研究員は、少子化について家事・育児の役割が女性に偏っていることや晩婚化、子育て費用の高騰が要因だと指摘しています。この指摘についてどう思われますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

出生数の減少といったことについては様々な要因が考えられると思っております、1つのことだけを実現するだけで簡単に改善できるものではないと思っております。市でも、様々な子育て支援の対策を練っていく中で、今後も取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

今の観点からでもジェンダー平等も求められますし、経済的な支援も求められていると思います。ぜひよろしくをお願いします。

それでは、（2）に移ります。

子育て支援に望むことを伺いますと、教育費の負担軽減、給食費の無償化との声が多いです。

また、物価高騰の中でも、子供の食事は量も質も落とせないとの声もあります。子ども医療費の無償化も、国に先駆けて段階的に年齢を引き上げてきて、市民の皆さんからは本当に喜ばれています。財源が問題になると思いますが、国による小学校の給食費無償化を前提とすれば、まずは保育園、幼稚園で実施していくことも考えられます。その場合は、財政に与える影響も少ないと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

小中学校の給食無償化ということのほかにも、幼稚園、保育園のそういった給食費の無償化といったところもございます。以上児——3歳以上の以上児のお子さんの関わる給食費というところでも、年間1,400万円ほどの財源が必要となってくると思っておりますし、また、未満児のほうは保育料の中に含まれておまして、なかなか給食費の部分というのが算出しにくいんですが、いずれにしてもですね、数千万単位の財源というのが必要となってくると思っておりますので、また今後、そういったところについては、検討していかなければならないと思っておりますのでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

ありがとうございます。

新潟県内でも、妙高市など4市町村は完全に給食費が無償です。また、見附市など5市町村では、第3子以降を無償にしています。ぜひ、糸魚川市でも検討をお願いします。

それでは、国保税の問題で再質問させていただきます。

全国市長会が、国民健康保険制度等の改善強化に関する重点提言を発表しています。この中で、子供に係る均等割保険税を軽減する支援制度については、国において必要な財源を確保した上で、対象年齢や軽減割合を拡大する等、制度を拡充することを求めています。市長も同じ立場でよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

私も全国市長会のほうに行ってまいりまして、国への要望事項等をまとめたものの会議も参加しました。基本的に全国市長会で取り上げた問題については、私自身も同じような考えを持っておりますので、ぜひその部分については、また全国市長会を通じて、国のほうに要望を、また後押ししていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

ありがとうございます。

必要性では一致しているということで。

ちなみにですね、この均等割、小学生まで免除した場合の予算について分かれば、教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小竹市民課長。〔市民課長 小竹貴志君登壇〕

○市民課長（小竹貴志君）

お答えいたします。

小学生までですね、小学生まで均等割を免除した場合の予算額になるんですが、今年度、今年度といえますか、最新の児童者数等で計算したところ、約350万円といった形になります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

約350万円ということで、糸魚川市にはですね、国保の財政調整基金が4億円以上あるといいます。ぜひ国が動くまでの間、段階的にでも実施することを検討できないでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

現段階では、法にのっとって、軽減措置というところでとどめたいというふうに考えております。以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

法にのっとってということですが、全国ではですね、免除されているところもあると聞いております。市の重点施策であります、子育て世代に優しいまちづくりのためにもですね、子育て応援のためにもですね、どうしたらできるか、ぜひご検討をお願いしたいと思います。

それでは、3番のほうに入らせていただきます。再質問です。

(1) についてですが、私も派遣された方、参加者の感想文を読みましたが、皆さん悲惨な戦争を繰り返してはいけない、学んだことを周りに伝えたいとつぶっておられます。皆さんがしっかり受け止めていることに感動しました。ぜひ今後もですね、派遣を継続していただきたいと思います。

ちなみに、市のホームページには、令和6年分しか掲載されていませんが、間違いないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

おはようございます。

お答えします。

ホームページ、令和6年までということで、今年度についてはこの後、今年計画しておりますので、また、その内容についてはしっかり載せていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

伺いたかったのは令和6年以前のものについて、すごくいい内容なんですね。これをぜひ市民の皆さんに広く知っていただくということは、非常に大事だと思います。ですから、ホームページのほうについても皆さんが、令和5年、4年なり、一定期間、もちろん全部載せるということはありませんので、一定期間、載せていただいて、皆さんがアクセスできるようにしていただきたいと思います。それに関しまして、今までのそういう感想文のつづりなどは、冊子として配布されてるのでしょうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

総務課長、もう少しマイクに近づいてしゃべってください。

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

報告書のほうを作成しておりまして、学校、また関係団体、また市の行政機関等に配布しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

ありがとうございます。

それでは、（2）ですね、市のほうとしても平和都市宣言の内容パネルを掲示していただけるというお話でしたので、ぜひですね、今年、被爆80年ということもありますので、早めにやっていただけたらと思います。

それでは、（3）のほうに入ります。

広島の高校生ですが、これは広島市立基町高校普通科創造表現コースの生徒たちなんですね。この方たちが、被爆の実相を後世に伝えていくために、証言者と共同で制作した原爆の絵です。被爆者の方々と何度も打合せを重ねて、証言者の記憶や思いに高校生が寄り添い、双方の気持ちをともに伝えるものになっています。

私も2回ほど見させていただきましたが、絵を描く生徒も想像を絶する光景に苦しみながら作り上げた作品です。ぜひですね、小中学校の生徒、高校生が描いたという身近なものでもありますので、ぜひ見る機会をつくっていただきたいと思います。そういう点で協議していただけるというお話でしたので、進めていただきたいと思います。

それでは、（4）に入らせていただきます。

この原爆と人間のパネルですけれども、これは昨年ノーベル平和賞を受賞しました、日本被爆者団体協議会が作成した原爆の写真パネルなんです。このパネルはですね、被爆地に行かなくても被爆の実相が伝わるものになっております。県内でも新潟市をはじめ、平和都市宣言の推進事業として行われております。糸魚川市としても、平和都市宣言の推進事業として、さらにですね、団体と

協議していただけるというお話でしたので、具体的に検討を進めていっていただきたいと思います。

続きまして、市長にお伺いしますが、糸魚川市も加盟しています平和首長会議というのがあります。これは、核兵器廃絶に向けての都市連帯推進計画、これに賛同する国際的な団体になっております。このホームページには、国内の自治体での開催、それから行事が紹介されております。平和首長会議の一員でもあります市長から、世界恒久平和の実現に寄与する取組についてですね、ぜひ意気込みをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

詳細については、またいろんな部分で中身を見ながら検討させていただきたいと思いますが、ただ1点、私、先般、戦没者慰霊祭、忠魂碑というところで、一の宮の神社にあるところで、実際のご遺族の方の、いわゆるお手紙を聞かせていただきました。非常に辛い思いをしているという思いが伝わってきました。

そういう観点からも、やはりこの戦後80年という部分、平和に対する思い、それを今の子供たち、市民の皆さんに伝えていく義務があるのではないかと感じておりますので、そういう部分からもアプローチをしていきたいと思います。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員、もう少しマイクに近づいて、はっきりと大きな声で、ぜひ質問していただきたいと思っております。

それでは、松田議員、どうぞ。

○2番（松田徳彦君）

すみません、ちょっと声がかれておりまして、申し訳ありません。

市長から、今ですね、力強い平和に向けての言葉ありました。ぜひ進めていただきたいと思っております。

先ほどもお話ししましたが、広島の高校生の絵ですね、それから、被爆者団体協議会が作成したパネルですね、こういうものを含めて、今年は中学生の広島派遣が8月にあるということですが、帰ってきた後、報告会もされると思います。ぜひ広島派遣研修の報告会等の場で、そのパネルなり写真、絵ですね、原爆の高校生の絵なり、原爆のパネル、それを展示していただくということも考えられますし、そうすることによって、高校生たちの報告内容もさらに深まると思われるので、ぜひ検討していただきたいのですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

高校生による絵ですが、こちらについては、確認しましたら広島平和記念資料館のほうに貸し出し、もしくはデータで提供いただくということができるとありました。ですので、例えば借りるなり、データを頂くなりして展示することは可能と思っております。

また、学校のほうに巡回というようなご意見はいただいておりますが、そちらについては先ほど市長答弁もさせていただいたように、学校のスケジュールだったり、あるいは、また感受性の強い子供さんもいるという学校のいろんなの条件もありますので、そこについては教育委員会のほうと調整は必要かと思いますが、市で行うものにつきましては、また協議はしてまいりますけれども、前向きに検討してまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

ぜひですね、前向きというお話もいただきましたので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それで、今もお話ありましたが、写真パネルはさすがに悲惨な場面についてもあります。ですから、そういう点で言えば、学校にもし掲示するとすれば、高校生の絵のほうがかぶさわしいような気もいたしております。そこら辺も含めまして、協議・検討をぜひ進めていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

これにて質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

以上で、松田議員の質問が終わりました。

13時まで休憩いたします。

〈午前11時59分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、関原奈津美議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。〔5番 関原奈津美君登壇〕

○5番（関原奈津美君）

みらい創造クラブの関原奈津美でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問をさせていただきます。

1、久保田市長が市民へ掲げた公約について。